

冬の楽しみ つる性の木

冬の森を歩いていると、「つる性」の木々が目に付きます。「つる性」の木は、他の木をよじ登り、光がよく当たる高いところで葉を広げて生活しています。冬は落葉しているのも、つる本体の樹皮や、よじ登り方がよく観察できます。登り方は種類によって異なり、「くっつく」「巻きつく」「絡みつく」など、それぞれ工夫されていて感心します。この冬「つる性」の木に親しんでみませんか？

① 付着根でくっつく



2023/1/17 つる性の紫陽花、ツルアジサイの付着根。本体から髭のように出て、木の幹にくっついてよじ登ります。

ツルアジサイ



2023/2/8 ツルアジサイの冬芽。【上】2023/6/21 花（装飾花は4枚）水滴型で美しい冬芽です。【下】2022/2/23 雪面に落ちたドライフラワー

③ 巻きひげで絡みつく



2020/3/31 ヤマブドウは、コイルのような巻きひげを伸ばして、他の木にからみついてよじ登ります。

ヤマブドウ



2021/2/24 外側の樹皮は長く裂けて垂れていることが多く、同じく山に多いサルナシと見分けられます。古くからツル細工として利用されてきました。

ツタウルシ



2022/3/3 枝先に裏革のような質感の冬芽。丸いのは実。冬は実の外果皮が取れて、縦縞の入った白い内果皮が目立つようになります。かぶれることで有名ですが、実や紅葉は美しく、触らないように注意しながら楽しみたい木です。

【上】2024/5/6 若いツタウルシ。地面を這うことも多く、まるで草のようなので注意が必要です。【下】2023/10/16 ツタウルシの紅葉

イワガラミ



2021/12/29 アジサイの仲間でツルアジサイと似ていますが、冬芽と葉痕が王冠を被った人の顔のように見えるので、見分けられます。また装飾花がイワガラミは1枚、ツルアジサイは4枚なので、雪面に落ちているドライフラワーを探してみるのも楽しいです。

【上】2022/7/10 花（装飾花は1枚）【下】2022/3/10 雪面に落ちたドライフラワー



2024/9/8 山のブドウは甘酸っぱくて美味しいです。八幡平市では栽培も盛んです。



2022/12/1 雪面に落ちた実。冬まで残っている実は甘味が増します。



2024/4/20 春、卵型の冬芽が割れて、ピンク色の新芽が出てくる様は衝撃的です。

② 本体で巻きつく



ツルウメモドキ

2024/2/23 蛇のように木に巻き付いてよじ登ります。ツルウメモドキの樹皮は特徴的な皮目があるので、わかりやすいです。秋にできる実は黄色と朱色で鮮やか。花材やクラフト材料として人気です。雌雄異株。



サルナシ

2021/3/18 美味しい小さな実ができるサルナシ。ヤマブドウと似ていますが、サルナシは本体が巻きつく、樹皮がうろこ状に剥がれることで見分けられます。雌雄異株（稀に同株）。